

読書通信

第5号

発行人: amagata

〈読書感想文の結果〉

A・Kさん、K高校代表に

わがクラスのA・Kさんの読書感想文「過去の過ちから学ぶ事」が本校代表作品（三作品の一つ）に選ばれました。モリス・グライツマン著 原田勝訳「フェリックスとゼルダ」（野はら花文庫）の読書感想文です。この作品は第2次世界大戦で迫害されたユダヤ人少年の悲劇の話です。まず愛知県内で競い、その中の優秀作品が全国大会に出場します。彼女の作品が評価され、全国大会に出場することを期待しています。また、彼女の文字は改めて清書の必要がないほど、丁寧に書かれていました。それは自分自身の読書感想文に対する熱意と誇りだと思えます。いい加減な字だとその内容までもいい加減に書かれた内容だと思われてしまいます。きれいに書けるとは言いません。人に見せる字は最大限丁寧に書きましょう。

読書感想文は、フィクションあり、ノンフィクションあり、様々でした。みんなの読書感想文を読んで、読んでみたいな、と思う作品も若干ありました。今回級友たちが読書感想文を書いた作品を紹介します。全作品を列挙するのは大変なので、複数の人たちが読んだ作品を紹介します。

住野よる 「君の臍臓を食べたい」…3人
沖田円 「神様の願いごと」…3人
又吉直樹 「火花」…2人
小林照幸 「車いす犬ラッキー」…2人

住野よるの他作品「また同じ夢を見ていた」「青くて痛くて脆い」も読まれていました。太宰治「清貧譚」「人間失格」やカフカ「変身」など文学史に載っている作品の読書感想文もあり、少しホッとしました。スポーツ関連の作品を読んでいる人も結構いました。

月に1冊は本を読もう！



今年のクラス目標の一つは「月に1冊は本を読もう！」です。本を1冊読む毎にシールを貼ることになっています。いま現在トップはT・Sくんの12冊です。身近なところに本があった方が良いと思い、今年はクラス文庫も設置しています。ワインの木箱に22冊の本が入っています。ほとんど私自身が読了した本です。最近やっと手に取ってくれるようになったようです。貸し出し自由です。今後追加予定です。どうぞ読んでください。

【現在の蔵書】

井上靖「敦煌」
小川洋子「博士の愛した数式」
小川糸「食堂かたつむり」
遠藤周作「深い河」
海堂尊「チーム・バチスタの栄光（上）」
海堂尊「チーム・バチスタの栄光（下）」
北川達夫「フィンランド・メソッド入門」
下川裕治「12万円で世界を歩く」
中野孝次「清貧の思想」
長谷川英祐「働かないアリに意義がある」
村上春樹「ノルウェイの森（上）」
村上春樹「ノルウェイの森（下）」
百田尚樹「永遠の0」
山際淳司「スローカーブを、もう一球」
由良弥生「眠れないほど面白い『今昔物語』」
カフカ「変身／旋の前で」
カミュ「異邦人」
スペンサー・ジョンソン「チーズはどこへ消えた？」
フランツ・カフカ 頭木弘樹編訳
ランボウ「地獄の季節」
「絶望名人 カフカの人生論」
受験の日本史「日本史重要事件70」
受験の日本史「重要史料111」

文章を書く力をつけよう！

一学期は新聞の社説等で、要約と意見を書く練習をしました。幾人かは的確な要約ができるようになりました。自分の意見を書く場合、当たり前のことですが、自分の意見がなければなりません。そして、論理的に記述することが重要です。まずはワンパターンでいいので、的確な構成で書けるようにしましょう。表現力と共に、新聞記事を読むことで社会的知識（一般常識）の吸収も期待しています。二学期は様々な短編小説を読むことで、文学的な芸術を味わってもらいたいと思っています。

よく読むことはよく書くこと
よく書くことはよく読むこと



後記

ドストエフスキー「白痴」（光文社古典新訳文庫）全4巻がやっと出揃ったので、読み始めました。訳者は亀山郁夫氏で、名古屋外国語大学の学長です。氏は他にもドストエフスキーの作品を数多く翻訳しています。5、6年前に光文社古典新訳文庫から出ているドストエフスキーの作品をすべて読みました。「罪と罰」「カラマーゾフの兄弟」が印象に残っています。ロシア人の名前は覚えにくいですが、人間の深層を探る作品ばかりです。個人的には「罪と罰」が好きです。是非皆さんも読んでください。